

先人からの「歴史」を受け継ぐ

新年度が始まり、下京中学校の「風の期」も2か月が経過しました。この間、3年生の修学旅行、1年生の校外学習、そして定期テストも行われました。特に1年生はたくさんの小学校から集まり、新たな「学習と生活」の「集団」の中で、中学生としての初めての体験をしています。2年生もキャリア教育の一環でもある「高校訪問」学習が行われます。それぞれの学年の生徒が、先輩の取組を受け継ぎ、新たな下京中学校の“すがすがしい“風”を吹かし始めています。先日、下京区在住の男性の方から中学校にお礼のメールが届きました。その内容は、出勤途中で思わぬ災難にあった時、登校中の中学生が「大丈夫ですか」と声をかけ、出助けをしてくれたことに大変感心し、中学生を見直したというものでした。

ところで、連日夏日が続き、5月27日には今年第一号の光化学スモッグ注意報も出されました。「健康」面での対策も大切です。口永良部島の新岳の爆発的な噴火、小笠原近海の地震など、今年も思いもよらない自然現象が各地で起きています。口永良部島では、1930年代に起きた噴火の被害を忘れず、先人からの知恵を受け継ぐとともに、日常的な避難訓練を生かして、決められた場所に集合し、島外避難が整然と行われた様子がニュースで流されました。日常的な備えの大切さを改めて感じるとともに、早く島に戻れることを祈りたいと思います。島民の方々の姿を見ていて、私たちも、防災に限らず学校での学習や生活の中での「備え」も大切です。将来の夢や希望を実現するために、今、何をなすべきか、地域や社会の中で中学生として何ができるかを考え行動することについて考えてみましょう。私たちは、京都という町に育ち生活をしています。その町を創造してきた町衆の方々の様々な「歴史」や「知恵」を受け継ぎ、新たな創造につなげていきましょう。

「私たちが先人からの歴史を、どのようにうけつぎ、どのように成長させて次へ渡すか、とても大きな問題で、その歴史を人間全体を幸福にする方向へのばす方向づけに、いのちがけの努力を払わねばならないのだ。」（『わが心の地図』岡部伊都子）



〈修学旅行 沖縄美ら海水族館にて〉

暑さや梅雨空に負けず、下京中学校を創ってきた先輩の歴史を受け継ぎ、「心とからだ」の「健康と安全」に留意しながら、学校生活を楽しみましょう。